

技術革新 心が健康でこそ

なるほど

科学 & 医療

半導体分野でノーベル賞級とされる研究成果を上げた大阪大の森勇介教授は、僧侶の肩書を持ち、カウンセリング会社も運営する。つらい経験を乗り越え、心の健康を取り戻した異色の研究者に迫った。

(松田俊輔)

厳しい父

「父親は天才肌の研究者で、意に沿わない言動にはとにかく厳しかった」

食事中に会話をしただけでしかられたり、プラモデルの作り方が悪いと取り上げられたりするなど厳しく育てられた過去を振り返る。

2023年に亡くなった父親は阪大工学部教授で、東京大の学長から「研究はノーベル賞級だ」と評価されるほどの機械分野の研究者だった。高校時代、バスケットボール部で練習では簡単な決まるシュートが、顧問の前だとなぜか入らなかった。「顧問の雰囲気は父親と重なった」

僧侶の肩書を持つ。

「心の健康を保つことが研究成果の向上にもつながる」と語る

と語る



中原正純撮影

机の横にバンニングに向かう前に体を鍛える。



趣味の筋トレは毎期欠かさない



奈良県内の山で修行する(2014年)

天野教授(左)と乾杯する



同月7日 鎮西寺(神戸市)で得度

※年表の写真は本人提供

心の健康に関する主な出来事

1966年4月

大阪府交野市で生まれる。3人きょうだいの長男。幼少期からの父親の厳しいしつけが、やがてトラウマに



(中央)

82年4月～85年3月(高校時代)

バスケットボール部に所属。プレッシャーへの弱さに悩んだ



(前列右から2人目)

85年4月

理学部志望だったが、父親の意向で工学部(阪大)へ

93年4月

大阪大の助手として研究を重ねる

2001年

カウンセリングを受け幼少期からのトラウマを克服

13年4月

自らの経験から、心のケアを通して学生らを支える新興企業「創晶応心」を設立。講演依頼が相次ぐ。天野教授との共同研究も進む

カウンセリング会社設立



大阪大教授

森 勇介さん 58

教員や学生支援

02年には文部科学省の事業

父親とは対等の関係で話せるようになり、これまで負担に感じていた他の研究者から教員を請うことや議論も積極的に進んでいった。大学で積極的に進んでいった。大学で積極的に進んでいった。大学で積極的に進んでいった。

すべてを打ち明けた結果、父親から厳しくしつけられた幼少期の記憶がトラウマの原点とわかった。「自分に非はなく、父親のしつけが行き過ぎだった」と考えられるようになり、気持ちが楽になった。

これが専門



作製に成功した人工結晶(本人提供)

次世代半導体の人工結晶

森勇介教授は、半導体の製造に欠かせない人工結晶の作製に携わる。

1993年、光を強い紫外線レーザーに変換する性質を持つ「CLBO結晶」を作製することに成功した。2種類の既存の結晶を混ぜるという新しい発想で、半導体検査装置の開発につなげた。より性能が高い次世代半導体の材料となる窒化ガリウ

ム(GaN)結晶の新たな作製法も開発。発光ダイオード(LED)にも使われる結晶で、ノーベル賞級の成果とされる。

ノーベル物理学賞受賞者の天野浩・名古屋大教授とは、2001年から共同研究を続ける。天野さんは森さんについて「業界の常識にとらわれない理にかなった型破り」と話している。

「が相談にのる新興企業「創晶応心」を設立し、取り組みを強化した。反響は大きく、カウンセリング利用者も年間延べ500人前後に上った。大学も必要性を認め、工学部全体のプロジェクトとして現在も続いている。心の健康に関する講演依頼が相次ぎ、本業の研究講演よりも多いという。

僧侶となる

企業設立から3か月後、神戸市の真言宗・鎮西寺で得度した。心の健康を重視する

考えは、弘法大師・空海の教えにある。不安や恐怖を乗り越えた先に心の平穏があることを学んでいる。心だけでなく、体も鍛える。趣味の筋トレは、朝の目覚め水をかぶるのは、朝の目覚め。「人間の潜在能力は、想像しているよりもずっと高い。心が健康であれば、成果は何倍にも高まる」

「なるほど科学と医療」では、研究者の人物像や生き方などに迫る研究の「向こう側」を随時掲載します。